

## ● 優秀賞

# 生徒の思考活動を活性化させるための 英語科学習指導の工夫

福井県武生市武生第一中学校 はったひでき 八田秀樹

## 1 はじめに

学習指導要領の基本方針の一つに、「自ら学び、自ら考える力の育成」が示されている。英語科の授業の中で、「自ら考える力」はどのように育まれるのだろうか。

言語の学習では、「模倣」や「訓練」的な要素（ドリル活動）があるが、これらには「思考」はあまり伴わない。授業時数が減る中、理屈っぽいことや高度な内容などやっている暇がないとか、題材に「平和」や「いのち」を扱ったものが出てくると、そんな難しいことに時間をかけている場合ではないとかいう声も聞かれる。

言語の学習では「暗記」や「練習」はもちろん不可欠であるが、これらは言うまでもなくコミュニケーションのため、すなわち、意味あるメッセージを受けたり、伝えたりするためである。意味あるメッセージの授受のためには、何よりも「考える」という人間的な精神の営みが必要である。英語の授業が、考えることのない発話ばかりで、考える内容のない授業では生徒は決して興味をもたず、疑問を感じるものであろう。（もちろん、言葉の教育では、ドリル活動とコミュニケーション活動の両者を有機的に連動させ、両者の間を生徒の実態に合わせて適宜行き来するといったバランスのとれた指導が必要である。）

生徒が「自ら考える」ためには、授業の中で「気づき」や「発見」がなくてはならない。これらは教室の中での様々な活動やきっかけによって生み出される。中でも生徒に与える

題材は重要である。題材の中に福祉・人権・平和といった話題に関して知的で感性に訴えるものがあれば、生徒たちはこれに応え、「考える」活動の源となるであろう。本研究では、生徒に知的・情的なインパクトを与え、思考活動を活性化させることをめざしたリーディング教材の開発とその活用法を具体的に提示してみたい。

## 2 教材化の視点

教材は、英語での実践的コミュニケーション能力を育成するため、実際の言語の使用場面や言語の働きに配慮したものを取り上げた。本プログラムでは、歴史上の人物に関して、生徒の興味や関心に応じて、学習意欲を起こさせるような題材を選択した。本県の全中学校で使用されている教科書の本文には、20世紀の偉人であるアメリカ人のレイチェル・カーソンの業績と生涯が紹介されている。また、リスニング・プラスではジョン・レノンが取り上げられている。中学校の最終段階におけるリーディング教材として、教科書と関連を持たせたもので何かよいものはないかと考え、このプログラムを作成した。そして、生徒に知的インパクトを与え、思考活動を活性化させるために、次の5つ視点から題材を取り上げた。

### ① 考えるきっかけを与える題材

考える力を伸ばすためには、考える要素をもった題材であることが必要である。

### ② 視野（世界観）を広げる題材

現代的な課題に目を向けることによって、世界観が広がるようにすることが大切である。

③ 発見や気づきがある題材

世界にはこんな生き方や考え方があるんだ、と理解し自分を振り返ることが大切である。

④ 感性に訴える題材

リアリティーのある題材（実話）ほど生徒の心に届くものである。

⑤ 自己表現を引き出す題材

自己表現の基本は叙述文であり、それが果たす役割は大きいものである。

本プログラムでは、教科書に英文で紹介されていない20世紀の偉人を5人取り上げている。英文は、できるだけauthenticなものを取り入れており、かなり高度な英文も含まれているが、生徒の知的好奇心を刺激し、読みの意欲を高め、メッセージに焦点を当てた活動が期待できる。後掲の英文題材等を参照していただきたい。

また、「実践的コミュニケーション能力」の育成という観点から、読んだことについてその内容を理解するだけでなく、自分なりの考えや感想、意見をもち、それをもとにコミュニケーションを図るような手立てを考えた。

### 3 知的インパクトを与える Further Reading Program

ア 指導対象 第3学年

イ 指導時期

2学期～3学期（11月下旬～2月下旬）

ウ 指導形態

各学級とも、JTEとALTによるチーム・ティーチングを基本とする。

エ 題材

20th Century Greats Supplement 1（全10時間） ＊ 〈 〉 内はテーマ

第1回～2回 A Man for All the People

--- Martin Luther King, Jr. 〈人権〉

第3回～4回 A Girl of Hope --- Anne Frank 〈平和〉（英文は資料2参照）

第5回～6回 The Great Scientist --- Albert Einstein 〈教育〉

第7回～8回 A Woman Of Miracle --- Helen Keller 〈福祉〉

第9回～10回 The Great Mother --- Mother Teresa 〈人間愛〉

#### オ 題材の主たる目標

① 20世紀の偉人たちの生き方などについて、自分の考えや感想を述べている。（コミュニケーションへの関心・意欲・態度）

② 20世紀の偉人に関する英文を読んで、内容を理解することができる。（理解の能力）

#### カ 言語活動の指導事項との関連

学習指導要領『「読むこと」の（ウ）』物語や説明文などのあらすじや大切な部分を読み取ること。

#### キ 本プログラムにおける評価

観点別評価を行うにあたっては、主要な観点を絞って重点化し、評価が煩雑にならないようにしている。本プログラムでは「表現の能力」「言語や文化についての知識・理解」についての評価規準は設定せず、評価の「過積載」につながらないようにした。「読むこと」における評価では、「表現の能力」として「正確な音読」と「適切な音読」について規準を示すことがあるが、このプログラムの指導（展開）中は音読練習を集中的に取り入れることはないので、「表現の能力」（音読）に関する評価規準は設定していない。（筆者は、英語教育における音読指導を重視している。）プログラム終了後、生徒各自が、5つの題材（英文）の中から自分の好きなものの一つを選び、音読の練習と発表につなげていくということを考えた。同じ英文を選んだ生徒2、3人ずつで楽しんで音読練習をし、読み

のチェックも生徒同士で行うといったペア学習や相互評価も効果的であった。

① 「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」

(1) 〈言語活動への取組〉 読んだことについて感想などを述べている。

(2) 〈コミュニケーションの継続〉 理解できないところがあっても推測するなどして読み続けている。

☆評価方法 生徒の応答・活動の観察、ワークシートのチェック（授業中、授業後回収）

☆評価基準

(1) 読んだことについて感想などを述べていることが認められる時に、B「おおむね満足できる」と判断する。それが常に認められる時に、A「十分満足できる」と判断する。

(2) 理解できないところがあっても推測するなどして読み続けていることが認められる時に、B「おおむね満足できる」と判断する。それが常に認められる時に、A「十分満足できる」と判断する。

Cの評価の生徒への指導の手立てとしては、自分の感想を述べやすいように、読み取りのためのヒントとなる情報を与えるなどして、スロー・ラーナーへの配慮を忘れない。

② 「理解の能力」

(1) 〈正確な読み取り〉 書かれた内容について正しく理解することができる。

(2) 〈適切な読み取り〉 書かれた情報について大切な部分を読み取ることができる。

☆評価方法 生徒の応答、ワークシートのチェック（授業中、授業後回収）

☆評価基準

(1) T or F方式 正答率が80%以上をA、60%以上をBとする。

(2) Q&A方式 正答率が80%以上をA、60%以上をBとする。

\* 数字は各問いにおける得点（1問5点と

した場合）

5 質問の内容を正しく理解しており、それに対して正確・適切に答えている。

4 質問の内容を正しく理解しており、それに対してほぼ正確・適切に答えている。

3 質問に対して対応した答えであるが、情報量の不足や表現方法の誤りが若干ある。

2 質問に対して対応した答えであるが、情報量の不足や表現方法の誤りが多い。

1 質問に対して関連した答えであるが、内容が誤っている。質問の意味が理解できず、無関係の応答である。または、答えられない。

Cの評価の生徒への指導の手立てとしては、語句の意味を確認させ、前後関係のある程度説明するなど、内容把握のためのヒントを与える。

Q&Aでは、本文の中から答えを探すような問い（事実内容に関する問い）に的確に答えているかをみることによって評価する。答えは本文の中に書いてあり、正答は一つである場合がほとんどであるが、こうしたQ&Aも基本的な活動として重要視されなければならないと考えた。そして次に個人の考え方を求める質問を設定することにより、考える力と表現力を伸ばすことをねらった。

ク 指導の基本的手順（学習の流れ）

「20世紀の偉人」20th Century Greats Supplement 1を取り扱う際の基本的な学習の流れは概ね次のようになる。〈 〉内は評価基準との関連。

第1時 予備知識の獲得と内容理解

\* 全体を通しての内容把握に主眼を置く。

① 「人物・予備知識獲得クイズ」（口頭によるQ&A方式）

② リーディング・ポイントの把握と英文黙読

③ 内容理解とタスク（ワークシート、参考資料付き）〈コミュニケーションの継

続)

- ④ 最初の感想 (ワークシート)
- ⑤ True or False (ワークシート)  
〈読み取り〉
- ⑥ Q&A (ワークシート)  
〈読み取り〉
- ⑦ 共同点検, 解説参照・質疑応答
- ⑧ 振り返り, 課題等の確認

第2時 前時の復習と自分との関わり・感想

\* Thinking Timeの設定とインタラクション。

- ① 復習 (口頭によるQ&A方式)
  - ② 理解不十分な箇所の確認
  - ③ 言語形式面の学習 (語彙, 文法, 発音)
  - ④ 印象に残った英文 (ワークシート)  
〈言語活動への取組〉
  - ⑤ 「私の考え」 (ワークシート) 〈言語活動への取組〉
  - ⑥ 読後の感想 (ワークシート) 〈言語活動への取組〉
  - ⑦ 意見交換, 質疑応答
  - ⑧ 振り返り, 課題等の確認
- \* 第10回終了後は, 音読集中練習・発表

#### 4 リーディング指導の実際 (「聞く」「話す」から「読む」「書く」へ)

以下に, 主な活動の具体例を示していきたい。

##### (1)「人物・背景知識獲得クイズ」

(口頭によるQ&A方式—インタラクションによる題材の導入)

導入段階では, 必ずウォームアップを行っているが, 代表的なものが教師と生徒の口頭によるQ&A活動である。生徒の発話を促す発問を用意し, 生徒の注意をひきつけ, 授業での各活動につながりを持たせた。ここでは, 生徒のイニシアティブはないが, 背景知識を

活かしたコミュニケーション活動で導入を行った。以下に, 実際の生徒とのやり取り (インタラクション) の例を挙げる。 (“A Girl of Hope — Anne Frank”の場合)

After asking Questions about daily life, etc.

JTE : Have you ever been to the Netherlands?

S1 : Neverland?

JTE : No, the Netherlands. How about Holland?

S2 : Poland?

ALT : No, Holland. What is Holland in Japanese?

Ss : ... (Students are in a daze. No student answers.)

(ALT writes “Holland” and “the Netherlands” on the blackboard.)

ALT : Holland.

JTE : *Holland*. (Speaks slowly.) Oh, Mr. \*\*\*\*\*.

S4 : “*Oranda*.”

JTE : That's right. The Netherlands means low lands.

(Pointing at “Holland” on the board.)

This is “Oranda” in Japanese.

What is the capital city of Holland? OK. Mr. \*\*\*\*\*

S5 : *Amusuterudamu*.

ALT : Yes, it's Amsterdam. Once a famous girl lived in this country. Who was she?

Ss : ..... (One student says, “*Hinto*.”)

JTE : She wrote a famous diary. Gayle sensei keeps a diary every day.

She usually writes in the staff room.

What is a diary in Japanese?

S5 : *Nikki*.

JTE : That's right. You also keep a diary every day, don't you?

ALT : Speaking of a diary, who wrote a

famous diary? Please ...

S6 : Anne *Furanku*.

ALT : Yes. Have you ever seen this?

Where was she born?

(ALT puts a picture copy of her on the board and writes "Anne Frank".)

Ss : .....

ALT : Does anyone know where Anne Frank was born?

S7 : She was born in England?

JTE : No. How about Ms. \*\*\*\*\*?

S8 : *Doitsu*.

JTE : In English? What is "*Doitsu*" in English?

Ss : .....

S9 : Germany.

JTE : Anne Frank was born in Germany. She lived in a big city. What is the name of the city?

S10 : *Berurin*.

S11 : *Furankufuruto*.

JTE : Yes. She was born in Frankfurt and moved to Amsterdam. (ALT writes "Frankfurt".)

Can you guess why?

Ss : .....

ALT : Did you know Anne Frank died when she was young? There was a strong political leader Germany. (JTE translates "political leader" into Japanese.)

Who was he?

S12 : *Hittoraa*.

JTE : Yes. Hitler. (ALT writes "Adolf Hitler" on the board.)

Do you know "concentration camps"?

There was a famous concentration camp in Auschwitz in Poland. Gayle sensei, can you write "Auschwitz"?

S13 : *Kyousei-syuuuyoujo*.

JTE : Yes, you know very well.

Today we are going to study about Anne Frank and her life.

## (2)リーディング・ポイントと英文の提示、朗読

これから読もうとする英文に対して興味を喚起し、内容に関して生徒が既にもっている知識を活性化させることをねらった。ここでは、トピックに関して簡単な質問を投げかけたり、内容に対する予測をさせたりするような発問（リーディング・ポイント）を与えた。(資料1)

その後、英文題材(資料2)を配布し、ALTが英文を朗読した。ALTとJTEが交互に英文を読み聞かせることも行った。生徒た

### A Girl of Hope

希望の少女 アンネ・フランク

世界的なベストセラー『アンネの日記』の著者、アンネ・フランクについてどんなことを知っていますか。

第二次大戦中、ナチ占領下の異常な環境の中で思春期を過ごした少女の生き方とは……

### Reading Points

- 1 Anne Frankの家族がアムステルダムに行ったのはなぜか。
- 2 彼女はどこで日記を書いたか。  
(途中省略)
- 7 彼女は将来どんな女性になりたいかと思っていたか。

タスク1 ☆ アンネ・フランクは日記にどんなことを書いたのでしょうか。

タスク2 ☆ "A Girl of Hope"を読んで、最初にどんなことを感じましたか。

### ●資料1／ワークシート

(リーディング・ポイントとタスク)

### A Girl of Hope

Anne Frank was a Jewish girl who was born in Frankfurt, Germany in 1929. Her family went to Amsterdam, the Netherlands to escape from the persecution of Jews by Hitler. She started to live in a hideaway. She wrote her diary during her time there. But in the end they were taken to concentration camps. To our regret, she died of typhoid there when she was only fifteen years old. “The Diary of Anne Frank” is still read all over the world today.

Anne Frank never lost her hope and she did her best. Sometimes she had complaints against her family and neighbors and she was interested in romances, history and arts. She was not good at math, but she was a very hard worker. She had a great literary talent and strong will and ways of expressing her ideas. She always said, “I don’t want to live without a definite purpose like most other people. I want to be a woman who is of help and gives much joy to everyone.”

Her wish was to keep on living even after her own death on the earth. And she continues to live in the hearts of innumerable people all over the world. (以下余白に脚注有り)

資料2／英文題材（下線等は生徒による）

ちはあたかも教師の罠にはまったように、英文を見ながら静かに朗読に聞き入った。

#### (3)内容理解とタスク（ワークシート使用）

ワークシート（資料1）をもとにして、英文の内容理解とタスクに取り組ませた。英語の授業なので日本語の使用はなるべく避けるが、難解と思われる英文が多い時は、その使用はある程度やむをえないと考えた。また、リーディングにとって重要な背景知識の活性化（理解の手助け）のために、人物に関する参考資料を配布して説明した。

#### (4)True or False（ワークシート使用）

ALTが個々の英文を読み、JTEが必要に応じて補足説明を加えた。生徒の手助けをしながら、T or Fに取り組ませた。その際、なぜTrueなのか、あるいはFalseなのか、判断のもとになる語句・文にアンダーラインを引かせるようにした。（資料3）また、生徒の

反応を確かめながら進め、質問があれば適宜対応し、必要に応じて全体に注意を与えた。質問を受けつけることによって、生徒の態度や意欲が評価でき、授業の活性化につながった。

- True or False
- ☒ 1 Anne Frank wrote her diary in a concentration camp.
  - ☒ 2 She died in a hideaway when she was only fifteen.
  - ☒ 3 She never made complaints against her family and neighbors.
  - ☒ 4 She was not interested in history and arts.
  - ☒ 5 She was able to express her ideas well.
  - ☒ 6 She will never be \*forgotten by people all over the world.

●資料3／ワークシート（True or False）

#### (5)Q&A（ワークシート使用）資料4

T or Fと同様に、ALTが発問しJTEが必

## Questions & Answers

- 1 **Why did the Franks move to Amsterdam?** To escape the persecution of Jews by Hitler
- 2 **How do you think they felt when they lived in a hideaway?** I think they felt uneasy
- 3 **Where did Anne Frank keep her diary? What do you think she wrote?** She kept
- 4 **What was she interested in? Did she have a literary talent?** She was interested in
- 5 **What kind of woman did she want to be?** She wanted to be a woman who is of help
- 6 **What do you think of Anne Frank?** I think she was a great girl because she never lost
- 7 **What do you think of the persecution of Jews by Hitler?** I think Hitler should not

Now write a question about "A Girl of Hope".

Did other family live in the hideaway with the Franks?

Write down the sentences that impressed you most.

I don't want to live without a definite purpose like most other people.

After reading "A Girl of Hope"

This is my first meeting with Anne Frank. I was very sad when I knew her story. I respect

### ●資料4／ワークシート (Q&A)

要に応じて応答の際の留意点を言うことによって生徒の手助け（支援）を行った。題材となる英文の質・量（難易度）を考えて、口頭のための「英問英答」ではなく、問いとなる英文を見ながら答える方法をとった。答えの根拠となる英文や語句の先頭に質問の番号を書いたり、アンダーラインを引かせたりした。

なお、T or F, Q&Aに使用する英文は、使用する疑問詞の数のバランスも含めて、文型や内容をよく吟味し、ALTによるネイティブ・チェックを受けている。自然な英語や生き生きとした表現が本文と同様に生徒の目に触れるというわけである。発問内容は生徒の読みを助けるものであり、ワークシートの形式は毎回同じなので、複雑ではなく、生徒たちは取り組みやすいと感じていた。Q&Aの大方は、事実（英文）内容に関するもの（Fact-Finding型）であるが、最終段階は自分の考えをベースにした応答を期待し、一人一人の考え方を求めるもの（Personal Involvement型）を設定した。前者はいわゆるDisplay Questionであるが、こうしたQ&A

は、言語形式の習得という観点から基本的な練習として重視した。文字で表現されている内容を正確に把握することや文型・文法事項の習得をねらったわけである。後者はいわゆる Referential Question や Open-ended Question であるが、生徒が自ら考えて答える必要のある質問や感想などを求める質問を設定することにより、考えるきっかけをつくり、考える力を伸ばすことをねらった。ここでは、生徒が読んだ内容に主体的に関わりをもち、それを踏まえて自分の考えや感想を持つことができた。

効果的な質問例：

\*What do you think she wrote?

\*What do you think of the persecution of Jews by Hitler?

題材となる英文やワークシートをもとに、内容を十分に理解し、「考える」ということによって、自分との関わりの中でコミュニケーションに取り組んでいた。

## (6) Thinking Timeとインタラクション

What do you think about ~? といった質問をワークシートに設定したり、「印象に残った英文や知らなくて興味を感じたことを本文中から抜き出してみよう」といった問いかけをしたりすることにより、本文を読み直してみたり、全体の中でカギとなっている文を探し出すようになり、「読むこと」の活動が深まっていった。自分で考えるということがコミュニケーションを続行させていくことになり、自分の考えを述べ、他の生徒の考えを知ることによって、「実践的コミュニケーション能力」の向上につながったと思われる。

ただ、前述のDisplay Questionの場合は、生徒は比較的スムーズに答える場合が多く、時間もあまりかからないが、Open-ended Questionの場合、初期の段階は生徒がこの種の質問に慣れていないこともあって、時間がかかるということが問題になった。そこで、生徒が答えやすくするための手立てを講じた。まずは、教師が根負けせず、考える時間を十分に取るようにした。また、考えた内容を表現する際に使用する定型表現を教師が例示し、生徒に教えていった。さらに、生徒同士で考えを出し合わせたり、個別に質問をうけたりして、指導していった。回を重ねるにつれて生徒たちは、自己表現に慣れてくるようになった。個人差も考慮しながら、生徒の学習を支援し、温かみのある声かけをしながら、コミュニケーションに対する積極的な態度を育んでいくことを心がけた。

## (7) 共同点検、解答例の提示・解説と質疑応答

解答例を提示する前に、ペアで交互に質問し合い、お互いの解答をチェックする機会を設けた。生徒同士で口頭によるQ&Aを行い、「聞く」「話す」活動も取り入れた後、教師の提示する模範解答との照らし合わせへとつなげた。

教師は、生徒の解答によく見られるつまづきは何かを把握し、誤答例を示しながら全体に注意を与えたが、基本的には取組に対する賞賛や励ましなどを行った。また、解答例は既習語句や文型を使用するのが原則であるが、未習のものを取り入れると、生徒たちは下線を引くなどして隣同士で質問したり、教師に質問をしたりして、積極的に英語を理解しようとしていた。

授業の最後にワークシートを回収し、後日生徒へのフィードバックを忘れずに行った。また、学習の過程における評価を重視するという観点から、生徒一人一人の良い点や可能性、進歩の状況を含めた授業中の諸活動への取組状況を評価として残し、通知表等に記載する所見のための参考資料として活かした。

## 5 おわりに

教材の作成にあたっては、図書やインターネットによる情報収集、英文の原案とワークシートの作成に多大な時間と精力を費やした。その際、ALTによるネイティブ・チェックを受けることは、英語教師の英語能力向上にも役立っている。ALTとのやり取りはまさにコミュニケーションそのものである。その中で気づきや発見、達成感や喜びなどがあり、教材作成後は満足感でいっぱいであった。そして、教師が自信を持って用意した教材に生徒たちが応えてくれた。作成した教材が生徒の目の輝きをもたらし、授業の充実につながったことは何にも変えがたいものであった。世界中には、人間の心の豊かさやたくましさ、悲しさやつらさ、楽しさや喜びなどを生き生きと表現している言葉がある。そうした相手のメッセージを受け取り、自分の考えを述べるといった活動が実践的コミュニケーション能力の育成に繋がり、これによって生徒たちの世界観を広げていくことになっていったと思われる。

生徒たちが常に英文に慣れ親しみ読み続けることによって、読む楽しさや喜びを味わい、人生を豊かなものにしてくれることに繋がることを願っている。生徒の知的好奇心に訴え、自分の生きている空間や時間と繋がっていると感じることができるような教材を共同で開発したりできればと思っている。

〈参考文献〉

- 八田秀樹. 2002. 「実践的コミュニケーション能力の向上をめざした授業づくり」『会報第60号』福井県英語研究会
- 平田和人編. 2003. 『中学校英語科絶対評価の方法と実際』明治図書
- 森住衛. 2002. 「実践的コミュニケーションをいかにとらえるか」『「〈実践的コミュニケーション能力〉を考える』三省堂英語教育No.41
- 文部省. 2001. 『中学校学習指導要領解説―外国語編』